ジョブ管理 の技 26

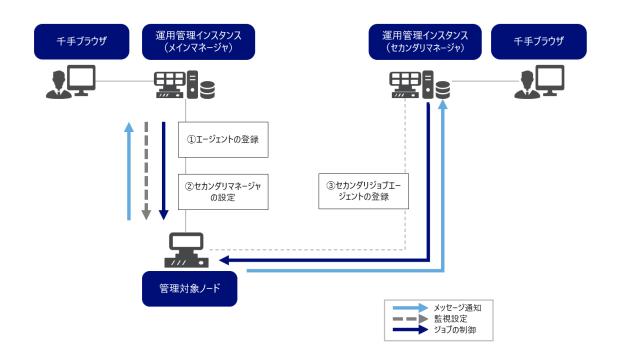
ジョブ運用を停止せずに運用基盤の メンテナンスを行いたい

現状の課題

ジョブ管理は一般的にジョブ定義を一元管理する「マネージャ」機能と、実際にサーバー上でジョブを実行する「エージェント」機能で構成されている。従って、マネージャ機能が動作するサーバーが停止するということは、ジョブ管理がその間止まることであり、大きな影響がある。そこで、サーバー障害時の影響を最小限にするために、マネージャサーバーをクラスタ構成にするなどの対策が採られている。しかし、この方法は、サーバー障害に対応しているが、障害時以外の計画的なサーバー停止には対応していないケースがある。その場合、ソフトウエアのパッチ適用やバージョンアップなどのメンテナンス作業時にはサーバーを停止させる必要があり、そのたびにジョブ管理も一時的に停止せざるを得ない。マネージャソフトウエアのデータファイルは共有ディスク上にあるケースが多く、クラスタ構成を組んでいても、データファイルフォーマットの変更が必要なパッチ適用やバージョンアップでは、クラスタの正系/副系の両方を同時に停止させなければならないからである。

解決策

マネージャサーバーのバックアップサーバーにてジョブ定義データを共有し、パッチ適用やバージョンアップなどのメンテナンス作業時は、バックアップサーバーからジョブ管理を行うことで、ジョブ運用を止めずに作業が可能になる。正系/副系切り替え時の作業負荷軽減やミス抑制のため、エージェント側の設定は変更すべきではない。また、正系/副系の切り替えは自動的に行われる必要がある。



Senju Family での実践方法

Senju DevOperation Conductor では 1 台のエージェント上のジョブを 2 台以上のマネージャから制御できる「セカンダリジョブマネージャ」機能を提供している。計画的なメンテナンスにおいては、セカンダリマネージャでジョブを制御する開始日と終了日を指定できる。正系/副系の切り替えは自動実行できる。メインマネージャとセカンダリマネージャの両方から同時にジョブ制御を行うことも可能である。さらに、「ジョブ定義の書き出し/読み込み」機能も実装している。メインマネージャとセカンダリマネージャ間のジョブ定義データの共有も行える。